

たかい

高井たまき新聞

高井たまきの思い

2022年10月1日、「原子力空母ロナルド・レーガン横須賀配備抗議！母港撤回を求める10.1全国集会」に参加。ヴェルニー公園から出発し、途中、米軍基地前でシュプレヒコール、市役所前まで行進した。ヴェルニー公園の集会では、弁士が声を上げて、米軍のある横須賀市の将来を懸念し訴える。「基地からのPFOS流出に調査をしないし、調査にも入らせない！」午後の熱い太陽の光を照り返す水面に揺られながら、何度も繰り返し聴衆の私にこたました。

有毒PFOSとは、何か。

おお、そうだ！TVで、ニュース(9月12日21:48) 報道になっていた、あのPFOSだ！「今年(2022年)6月、米側から防衛省に対し、米海軍横須賀基地から、健康リスクが指摘されている有機フッ素化合物PFOSを含んだ排水が基地の外部に流失した可能性がある」と通報された。」

今年5月 米軍排水から泡を確認し、指針値を超え検出
今年6月 基地の外の海水(6月29日、米軍⇒防衛省に通報)
今年7月 基地の中の排水(米軍、再調査)
今年8月 29日、米軍3回目、調査。172倍の濃度で検出

「防衛省の担当者が基地の中から再び基準値以上のPFOSなど有害物質が検出されたことを(横須賀市に)報告」。尚、8月29日、3回目の調査を米軍が行った際は指針値の172倍、これまでの数値を大幅に上回る濃度だった(Web news)。

横須賀市としては、この発生事故に対して、基地内の調査をしないで終わりか。そもそも、この物質は横須賀市だけの発生事案か。ネットニュース報道で、次々と出てくる。「使用禁止化学物質19種類、検出」、「沖縄普天間米軍施設(うるま市) 汚水流水 有機フッ素化合物濃度 指針値の約1600倍濃度」、「現在は、製造や輸入が原則禁止され、使用も制限されている航空機火災の際に使う泡消化剤などに含まれている(PFOS)。「米軍座間キャンプで検出」、「厚木基地から泡消化剤PFOS流出」。

なるほど、米軍基地で頻繁に使用されている泡消化剤であることが以上から分かる。

今年9月 7日、横須賀市は、**基地の外**、7ヶ所を調査
今年10月 6日、地位協定(環境補足協定)に言及し、市長が会見した。

時系列で、並べてみたが、今年の5月に米軍の通報によって明らかになったPFOSの検出から、横須賀市が調査したのは、4ヶ月後の、しかも基地の外！7ヶ所とは、どこで？

なぜ謎の初動行動は、深まるばかりである。

😊次号(3号)では、「環境補足協定とは?」、県議会、市議会での議会質疑の内容について、解析します。ニュース報道で、一瞬流れるだけでは、何がどうなっているか分からない。分かる範囲で、明らかにしていくよ!!



横須賀基地ゲート正面にてシュプレヒコール！原子力空母は、非核3原則に反しているよ。



米国産オスプレイは、沖縄だけじゃないね。

9月14日(水)、板橋区で「国葬をとことん語ろう！福島みずほ&宇都宮けんじ、主催司会進行 五十嵐やすこ(板橋区議会議員)」に参加した。

政府は、国葬実施について議論が分かれている最中、実施に踏み切った。国会で審議せずに閣議決定だけで実施する姿勢は、将来起こりうるあらゆる局面で、国会を通さずに決めていくことを予見させ、日本の意思決定の不透明さも加わり、**民主主義**とかけ離れた実態に恐怖政治を思い起こさせるほかない。選挙制度は、長い時と多くの犠牲を払い、戦後やっと普通選挙が実現した。さらに、国民に付託された議員が選ばれ、国会が採択の場になり、1人1人の議員には、全国民の代弁者として、国会を通して国民の意思を反映させるのだ。その国会を決定の場にしないとは、選挙制度、政党政治、二院制、三権分立までもないがしろにしている。政権を得た与党で構成された政府だけで、日本の総意を作っているだけではないか。この失望すべき実態が、将来を担う子供たちにとってどう影響されるのか、社民党党首の福島みずほ氏と、同じ弁護士の宇都宮健児氏に、インタビューした。



福島みずほ
社民党党首
参議院議員



宇都宮けんじ
弁護士
反貧困ネットワーク代表

『子どもにすごく影響を与えていると思っている。一つは、ある会でマイクを握った女性のお孫さんがこう言ったそうだ。安倍総理が狙撃されて亡くなった時、「犯人は、偉い人を殺したんだから死刑だよね。」と言った。もう一つは、国葬をやって、黙祷だったり、テレビの番組で立派な政治家がなくなったから国葬なんだと、みんなが弔意というメディアになった場合には、やはり、今の子供たちって、例えばもの心ついたときから8年間、安倍総理だった、というところがあるので、そうすると、やっぱり私たちは、安保関連法は違憲の法律じゃないかと思っているけれども、子供たちにインプットされるのは、国葬までやってもらった立派な政治ということがものすごくある意味刷り込まれてしまうのではないかというふうに思っていて、いろんな評価があるとか、「政治ってこんなことがあったんだよ」という、森友、加計、桜を含めて、と思っているので、私は、今回の国葬は、世界に向けての日本の発信でもあり、日本国民全体に対するある種の安倍さんの政治の正当化、それへの承継につながるけれども、一番影響を受けるのは、子供じゃないかという心配しております。』

『～。吉田元首相の国葬の時は、学校は半ドンで(半日で)終わりにした。それで、政府の方は国民全体に対しても黙祷を要請する、ということを行ったんですけど、先程、お話しした通り、弔意の表明の要請っていうのは、閣議了解を見送ったというのがありますので、それだけ強制をして、決定するっていうのが、国民の反対の声を受けて、弱まってきている。

それから、いろんな自治体によっては、もう半旗を掲揚しないという、そういうところも出てきますので、基本的に弔意を強制するっていうものは、憲法19条にですね、思想及び良心の自由、内心の自由を侵害してはいけないって基点があって、これは基本的な人権なんですね。子どもたちに対しても、そういうことを強制するっていうのはこれは憲法違反で、やってはならないということ、強く言うべきだし、そういう申し入れを各地の教育委員会、市長宛に要請するっていう、まず運動、行動を起こすことは非常に重要じゃないかと思えますね。そういう行動を本当は子供達に見てもらいたいですね。「なんで、お母さんたちはそういうことをやっているのか。」多分、それは、必ず記憶に残ると思うんですね。あの時、国葬は行われたけれど、そういう市民のひとは、市長に「弔意の強制はやめろ」とか、「半旗を掲揚するのはやめろ」ということを申し入れた市民運動があったなという、それを子どもたちに見せるべきだと思う。』

ありがとう！ みどりの窓口

2022年9月7日17時半で、長く親しまれていたJR久里浜駅のみどりの窓口が最後の仕事をし、その役割を終えた。時代の趨勢というか、駅の窓口の無人化が進み、JR横須賀線の久里浜駅も明日からは、今までの駅の顔はない。駅は人間ではないが、淋しくなる。歴史をたどると、横須賀線建設のねらいは、海軍の横須賀鎮守府と陸軍の観音崎砲台への兵員や物資の輸送の便を確保することであった。明治19年(1886年)6月、海軍大臣と陸軍大臣が首相伊藤博文に横須賀鉄道の閣議を開くよう要請した。工事は明治21年1月に着工し、翌22年には、横須賀、逗子、鎌倉、大船の4駅が開通し、開通した6月16日には、各駅で花火を上げ、多くの見物客でにぎわった。昭和19年4月には、当時軍施設が急増していた久里浜まで横須賀線が延長され、衣笠-久里浜の両駅が開業した。需要の背景は、変わってきても、やはり駅を利用する人々を駅は生きた目で見つめていたと思う。効率化されるのは経営上確かに必要である。しかし、生活に関わるインフラに効率の追求はなじまないと閉まるシャッターを背中にしみじみ感じた。



高井たまきプロフィール



明治大学政治経済学部政治学科卒業
横浜国立大学大学院教育学研究科修了
モラトリウム期間に、横須賀さいか屋
(大通り館や新館がまだある頃、新館に3年間)勤務
東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子細胞生物学研究
研究支援
神奈川県下の中学・高校10年以上勤務 社会科教諭
議員秘書
横須賀市上町 在住

高井たまきを
応援する会
会員募集中
会費無料

FAX/TEL
0468-27-8029
横須賀市本町1-9
三協ビル3F